



説明文・論説文(1)

▼指導ページ P 4～17▼

☆指導のポイント☆

- 「語句の意味」、「主語・述語の関係」、「指示語」から文の内容をつかみ、「話題」、「文と文の関係」「要点」から段落内容をとらえる。
- 「事実↔意見」、「例示↔まとめ」、「説明↔結論」の関係から、文章全体の構成を理解する。

板書例

練習問題1
【最初10行目】

惑星の誕生
↓ 彗星の衝突 → 地球型惑星誕生直後

惑星の進化
↓ 太陽からの距離・惑星の重さ → 決定

金星・地球・火星の差

【11～14行目】 水星
↓ 太陽に近すぎる → 熱の影響で大気がない

【15～27行目】 金星
↓ 地球より少し太陽に近い → 熱地獄

【28～43行目】 火星
↓ 地球の十分の一の重さ → 重力が弱い
↓ 水蒸気・大気が逃げる
↓ 大気が無い・大地は荒涼

【44行目～最後】 地球の特徴
金星より太陽から少し遠い → 海ができる
火星より10倍重い → 水蒸気がにげない → 常に海がある
↓ 生命誕生の条件が整う

基本問題1

① 話題 → アユは短命・多彩な生涯
② 晩秋 → 孵化 → 寒い冬 → 近海 → あたためたかい海で生活
③ 二月下旬から三月 → 岸に近づく → 魚体は半透明
④ 桜の咲く頃 → 黒い色素できる → 鱗もできる → 海産稚アユ
⑤ その後、川をさかのぼる → 川で成長 → 食性の変化
⑥ 九月下旬から十月頃 → 川底の小石に産卵
⑦ 赤ん坊のアユ → 受精卵の孵化する条件
⑧ 産卵を終えたアユ → 砂食いアユ → 「さびアユ」 → 「おちアユ」 → 死

基本問題2

① 日本 → 街中に森が少ない・欧米 → 街中や周辺に森が多い
② 日本 → 街に森がない理由
① 平野が狭い → 森が入りこむ余地がない
② 戦後、欧米の合理主義や効率主義を誤解して導入
③ 街路樹がピンチ → 根元にアスファルト
④ 公園の樹木も弱る → 誤ったあつかい
⑤ マツ枯れの問題
⑥ マツ枯れの後に森林の回復
⑦ 落葉広葉樹・照葉樹 → 根元を掃除して弱らしてしまう
⑧ 筆者の考え → 樹木を植えられた、人の集まる公園がいい

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P6) 問一	【*】の後ろの文が前の文をさらにくわしく説明している。アは逆接、イは転換、エは説明・補足。 【1】では2点のこと(=「短命なアユ」「多彩な生涯」)が述べられていることに注意。「まず」とはいくつかある論点の一つ目という意味なので、「多彩な生涯」の方。
問二	10行目に注目。
問三	(1)は「体長＝四、五センチ」がヒントになる。(2)・(3)はそれぞれの段落の内容を整理させる。
問四	「海水とま水の混ざる場所」＝「川から海へつながる場所」を考えさせる。
問五	25～29行目に注目。
問六	直後の32～35行目に着目。
問七	前の部分と40行目「しかし」より後の部分は「反対の内容」になっていることに注意。
問八	直前の「これ」が指示する部分をさがさせる。
基本問題2 (P8) 問一	5・6行目、12・13行目に注目。
問二	【2】の中で「欧米の街並」に記述した箇所＝9・10行目注目。
問三	直後の文「～からだ」に注目。
問四	【1】は直前の「誤った」あつかい方をその後で具体的に述べている＝「たとえば」 【2】は事実を並べて述べている＝「また」
問五	35行目「それだけでなく」に注目。2つの「事実」に加えてその原因を述べている。
問六	形式段落の最初の「ことば」に注目。【5】の「ついでに」は【4】に付け加えて話を展開していることを読み取らせ、【7】で話を「もどす」のは、もとの話の流れである【4】の続きをのべることだと読み取らせる。
練習問題1 (P10) 問一	①の直前「それ」の指示する部分をさがさせる。
問二	②の直前の「それ」は8行目「惑星の進化」を指している。その進化は何によって決まったかを読み取らせる。
問三	11～13行目の内容をまとめさせる。
問四	「水蒸気」に注意して「金星」についての記述をまとめさせる。21～23行目に注目。
問五	37～39行目に注目。
問六	大気と水の点から「火星」「金星」「地球」を比べてその特徴をまとめさせる。 「地球の進化」＝「水蒸気が失われない」→「海がある」→「生命誕生の条件が整う」に注目。

☆指導のポイント☆

- 形式段落の要点をつかみ、話題のつながりごとに分けるという意味段落の分け方を理解する。
- 意味段落の要点と論の流れをつかむことで、要旨をとらえられるようにする。

板書例

練習問題 1

①～③ 品種改良⇒導入

ダーウィンの考え

- 自然界の生存の「選択」⇒「偶然」の作用
- 親→子への遺伝子情報の伝達⇒「偶然」
- 親が生存している時に手に入れた形・質は遺伝しない

④～⑥ 選択の種類と事例

- 生存競争⇒キリン
- 生殖⇒クジャク・猿
- 育児⇒キジ

⑦ 遺伝子のもつ役割

⇒子どもの数の少ない生物の場合

⇒DNAの中に子どもを守るうとする本能がセットされている

筆者の主張

「正しい言葉」を意識↓個性の主張⇒「言葉のひねり」がある

↓日本語の行く末を心配していない

基本問題 2

①～⑥ 言葉は風景のようなもの

↓人間の生活・環境が変化↓言葉や話し方も当然変わる

⑦～⑮ 「日本語が乱れている」という意見に疑問

言い方はさまざま⇒人間の生活・心もさまざま

⇐

「正しい言葉」があるから「言葉」に「ひねり」がある

⇒「言葉」による自己主張↓「活かした言葉」

基本問題 1

①～③ 学習の初めのステップ 例イヌ

学習⇒ものごとの関連性を習得すること

④～⑦ 学習の第二のステップ 例イヌ

記憶⇒「失敗」と「繰り返し」によって形成され、強化される

⑧～⑩ 勉強に関して、失敗したら、解決策を考えることが肝心

⑪ 「反省を活かすこと」

↓勉強には重要

「楽天性」

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 定番 (P20) 問一 問二 問三 問四 問五	① は、後に前の文の具体例が述べられている。② は、後の文で前の文の原因を説明している。アは順接、イは逆接。 指示語はまず直前から探させる。 傍線部の「この事実」と傍線部直前の「この装置」の「この」の部分に着目させる。 前の段落の「失敗とは」と書かれている部分に着目させる。 板書例を参照。 筆者の言いたいことは、たいてい最後の段落に書かれている。
基本問題 2 (P22) 問二 問三 問四 問五 問六	直前から「言い方」について「一つだけではない」という点を読み取らせる。 直後の⑫に注目。「(職人さんなど)も」と述べていることから判断させる。 44行目に注目。 「主語」が直前49行目と同じだから省略されていることに気づかせる。 ①Aの「かける」に注意。筆者の主張の中で「～かける」ものを探させる。 ①Bの直後の「意識」に注目。56行目注目。
練習問題 1 (P24) 問一 問二 問三 問四 問五 問六	時を表す語に注意。 はじめに「まとめ＝主張」を述べて、後の部分で、その事例などをあげて、「まとめ＝主張」にいたった原因や理由を説明する型であることに気づかせる。 ダーウィンの考えを説明している②・③に注目。繰り返し使われている「偶然」という語に着目。 「まったく……残す」までが長い一文の整理には、「読点」ごとに要点をまとめて整理させる。 (1) ④にキリンの事例が述べられていることに着目。また、⑦の海亀も大量の卵を産むことで子孫をのこそうとしていることに注目。 (2) ⑤の「発情期」から判断させる。 (3) ⑥の「子育て」という語に着目。 ③の結果を導くことがらは、直前に述べられていることに注意。 「形式段落の最初の語に注目→接続語に注意→形式段落の間の関係を整理→そのつながりから意味段落にわかる」＝この手順の確認。

☆指導のポイント☆

- 「いつ」(時)・「どこで」(場所)・「だれが」(人物)・「どうした(どうなった)」(できごと)に注目し、場面をとらえられるようにする。
- 情景の印象や情景の変化、情景から人物が感じたことに注意するようにする。
- 登場人物の立場(社会的な地位・物語の中での立場)や、人物と人物の関係、事件やできごとに対する登場人物の考え方に注目し、登場人物について正確に把握できるようにする。

板書例

基本問題1
【最初～24行目】

母 ①家じゅうを掃除→ミスター・カラキが日本に来て家に泊まる
②母の話→ミスター・カラキと母の話の関係
りん ①母の話にたいくつ
②ミスター・カラキに会ったことがない⇒実感がわかない

基本問題2
【25行目～最後】

夕食：父と母の会話
父⇒ミスター・カラキが自分の家に泊まること⇒気が重い
母⇒●恩返し ●来てほしいといった手前仕方がない

基本問題2

登場人物 ⇒ 健太郎・おじいちゃん・かあさん・おばあちゃん
びわこのおばちゃん

場所 ⇒ おじいちゃんの病室
おじいちゃん⇒寝たきり

健太郎 ⇒ おじいちゃんへの話しかけ⇒おじいちゃん⇒反応
かあさん・おばあちゃん⇒おどろき

びわこのおばちゃん⇒健太郎を「大先生」とよぶ
かあさん・おばあちゃん⇒「人間」として感情をもって世話をしよう

練習問題1
主人公⇒「僕」

【最初～14行目】
僕⇒キツネたちと月見をしたかった⇒**残念**

【15～45行目】(月見の場面)
僕⇒親愛と儀礼の気持ちをこめてあいさつ
↓キツネたちの目⇒月光石のように美しく輝く⇒**親愛**
キツネたちと月を眺めた
↓僕はキツネたちに何かしてあげようと考え
↓十四匹のキツネにパンとチーズなどを与えた
↓キツネたち⇒好意を素直にうける
みんなよろこんでいるようであった

【46行目～最後】
キツネたちといっしょにあたたまる
⇒キツネたちの仲間になれた⇒**うれしい**

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P34)	<p>定番問二 * の後ろの「むし返してほしくない」に注目。</p> <p>問三 「りんの生まれる前」からのつきあい＝「古く」からのつきあい、と理解させる。</p> <p>問四 「母」の話に着目。9・10行目・15行目に注目。</p> <p>問五 「明治」という時代＝実感のない時代を意味していることから推量させる。</p> <p>問六 「父」は「ミスター・カラキ」の来訪を歓迎していない＝32・33行目ことを読み取らせる。</p> <p>問七 40行目からの「母」の会話に着目。「母」も積極的には歓迎していないことを読み取らせる。</p>
基本問題2 (P36)	<p>問二 直前の7行目の「おかあさん」の言葉に注目。</p> <p>問三 「びわこのおばちゃん」の「感動」を共有したい気持ちを読み取らせる。</p> <p>問四 「びわこのおばちゃん」の「健太郎」に対する評価の変化に注目。</p> <p>問五 40・41行目に注目。</p> <p>問六 28～30行目に描かれたこととは「逆」のことを想像させる。</p> <p>問七 「びわこのおばちゃん」の話から「かあさん」があらためて気がついたことに注目。</p>
練習問題1 (P38)	<p>問一 「僕」が月見をする場面をさがさせる。8・20行目に注目。</p> <p>問二 17行目「僕」の行動、18行目「キツネたち」の様子から判断。</p> <p>問三 直後の部分に注目。</p> <p>問四 28～31行目、32・33行目から「キツネたち」が争うことなく「食べた」ことを読み取らせる。</p> <p>問五 ⑤の直前に注目。</p> <p>問六 43・44行目から「僕」の感じたこと想像させる。</p> <p>問七 「仲間としてあつかわれること」＝「キツネたちと気持ちがいっしょになってものごとを感じあえる」こと。 48～50行目に注目。</p> <p>問八 場面の変化に注目。「湖に着くまで」「キツネたちと月を眺める」「キツネたちの仲間として受け入れられる」の3つの場面から構成されていることを読み取らせる。</p>

☆指導のポイント☆

- 心情が書かれた地の文、登場人物の言葉・行動・立場、別の人物の言動、情景から、人物の心情を読み取れるようにする。
- 地の文での描写や、人物の言動から、人物の性格・人物像をとらえられるようにする。
- クライマックス、印象に残る場面・行動・言葉、主人公の心情の変化から、主題(登場人物の思い・生き方)を読み取れるようにする。

板書例

練習問題 1

河津家での接待

「てっちゃん」の気持ち

|| 遠慮のない夫婦者への反感

|| 顔では百万ドルの笑顔↓自分で自分の本心がわからない

「てっちゃん」が海へ行くとき

|| ひとりで行く

|| 「茅ヶ崎の明るく元気な太陽少年」という日常から離れる

|| 「てっちゃん」は自分を暗い性格と思っている

基本問題 2

カッパ淵にある岩の上

明 ↓ 足がすくむ ↓ とびおることができない || こわい

健太 ↓ 明を冷やかす

明 ↓ 健太の冷やかに反応してとびこむ ↓ 負けずぎらい

明がとびこむ

健太 ↓ 「明」の勇気をみとめる

↓ たがいに気持ちが通じる

基本問題 1

● 移杖式でのニュー・鼓笛隊のおひろめ

↓ ピアニカ以外の楽器をやりたい人 || オーディション

● オーディションを受けなかった人

・ 山井: 受験のため

・ ルーちゃん: 夏休みも練習は「タリイ」

・ 江崎: 二学期に転校してきてから学校に来たり来なかったり

● オーディションを受けたのに不合格の人

↓ 久保田と佳代とウチ

・ ウチ: できないグループに入ったことない: まさか落ちるとは

ヘンに緊張した ↓ 情けない

後ろ向きの気持ち・ナメてかかった

ダメだとわかったとき || ショックで泣くところだった

↓ 恥ずかしい・悔しい

久保田: 教室の隅で泣いていた(噂)

佳代: ケロリしていた ↑ マイペース・のんき・適当

怒り・あきれ

● 小太鼓のリズム || うるさくて悔しい: 後悔

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P48)	<p>定番</p> <p>指示語なので前に書いてある。「演奏」するのはいつなのかをとらえる。</p> <p>前後の内容がまとめられているので、A は直前から、B は後の部分から探させる。</p> <p>問二 ②のあとに、「スティック握る手がぶるぶる震え」と書いてある。緊張の様子が描かれている部分に着目させる。</p> <p>問三 直前に「夏の練習なんてイヤだなあ」とあることから、あまり気乗りしていないことを理解させる。</p> <p>問四 傍線部の直後に描かれている部分をまとめさせる。</p> <p>問五 傍線部の直後に佳代の性格について描かれているので、そこから字数に合うものを探させる。</p> <p>問六 オーディションについての部分と、ウチの性格について本文に書かれているものを選ばせる。</p>
基本問題 2 (P50)	<p>問一 直後の「足がすくんだ。とても、とびおることはできない」とは逆の内容になることに注意。</p> <p>問二 「明」はとほうと思って岩の上に立ったことから、その気持ちを想像させる。</p> <p>問三 (1)③「光」が消えてしまうという内容から、「明」のおそろしいと思った気持ちを読み取らせる。</p> <p>(2)対照的(=反対の内容などをあげて違いをあきらかにする)な表現として45行目に注目。</p> <p>問四 14行目・27行目から「明」の性格を想像させる。</p> <p>問五 とびおることができた「明」のほこらしい気持ちを読み取らせる。</p> <p>問六 「こわさ」をのりこえてとびこんだ「明」に対する、健太の評価が変わったことを読み取らせる。</p> <p>問七 ⑤の後に「健太」がとびこんだことで、2人は同じ「カッパ淵」にいる状況=心の通じ合いを表現。</p>
練習問題 1 (P52)	<p>問一 7~9行目、10行目、19・20行目に注目。特別な待遇とは何か読み取らせる。</p> <p>問三 12~14行目に注目。</p> <p>問四 ④の結果の「てっちゃん」の反応に注意。</p> <p>問五 「~ところ」で解答させる。直前の25・26行目に注目。</p> <p>問六 直後の箇所から「てっちゃん」が海でひとりになることを読み取らせる。49行目に注目。</p> <p>問七 設問の「(どんな)少年」「14字で書きぬく」がヒントとなる。35行目に注目。</p> <p>問八 「てっちゃん」の性格を描いた箇所を確認させる。30行目・34~36行目に着目。30字以内でまとめることにも注意させる。</p>

板書例

1 ① 日本に棲むリスの種類
 ↓ ● エゾリス 北海道 ● ニホンリス 本州・四国・九州
 ② ⑧ 樹上の巣
 ↓ 場所：枝の股・形：ラグビーボールのよう・大きさ：直径八十センチくらい・巣材：木の枝―内装にはコケなどを詰め込む
 ● 防水効果が高い ● 安全のためにいくつかの巣
 ● 夏用・冬用の巣
 ⑨ ⑩ 樹洞の巣
 ↓ 防水性高い・ムササビなどと同じ
 ⑪ 筆者の主張 ⑪ リスの巣はもともと樹洞↓樹洞の数に限り
 ↓ 「あぶれ者」が樹上に防水性のすぐれた巣
 ↓ あらゆる場所に巣 ⑪ リスの仲間の繁栄

2 ① ④ ④ 日本の建築物の特徴 ① 「柱立ち」 ↓ 木が豊富
 ↓ 人間の生活・環境が変化 ↓ 言葉や話し方も当然変わる
 ⑤ ⑤ 「壁立ち」 建物の特徴
 厚い壁の利用 ⑤ ぼみ棚・暖炉・煙抜き・隠し場所
 「壁立ち」 建物のある地帯の特徴
 ↓ 「町」の周りに敵の侵入を防ぐ壁 ↓ 「国」に壁
 ↓ 城門のカギが大切
 ⑬ ⑬ 「壁立ち」 建物のある地帯 ⑬ カギが大切
 「柱立ち」 建物が多い日本 ⑬ 無防備 ⑬ 他の地帯と異なる倫理観が発達

3 ③ 江の島への遠足・江の島の駅
 「ぼく」のリユックに重い「亀」 ↓ 一度すてるが、拾う
 江の島遠足
 ● 「少年」が現れる ③ 「ぼく」と同じ学校の制服を着ている
 ● 「少年」の話 ↓ 「現世」の「蛻(カラ)」を手に入れた
 ↓ 「ぼく」には話を通じない
 教室 遠足の写真 ③ 「ぼく」の傍らに「少年」が立っている
 ↓ 不思議な気持ちになる

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
1 (P60)	問一 ①の主語 = 「その穴」 → 「その(穴)」の指す部分 → 直前の「出入り口」 → 何の「出入り口」か = 14行目「リスの巣」を読み取らせる。 問二 直後の部分の「そこで……使う」は解答としては不十分。具体的にどのように使うかを述べた部分を見つけさせる26行目に注目。 問三 「防水」に着目。36・37行目に注目。 問四 直後の43・44行目に注目。 問五 「あぶれ者」に注意。64行目に注目。 問六 設問に示されたそれぞれの意味段落の内容をヒントとして、対応する組み合わせを探させる。 問七 ⑪の内容に注意。最後の文に注目。
2 (P62)	問一 ①の最後の文の疑問に答えを示した③に注目 問二 * の前後で内容が対立していることを読み取らせる。 問三 「柱立ち」と「壁立ち」を対比して述べていることに注意。②に注目。 問四 「壁立ち建物」に関する記述の中で、特に⑤と⑧に注目。 問五 石積みの建物についての記述のある直後の⑦に注目。 問六 55・56行目、59・60行目に注目。 問七 話題の転換については、各形式段落の「最初の語」に注目。「さて」や「さらに」に注意。 問八 「無防備」 → (結果) → ⑥の流れになっていることを読み取らせる。
3 (P65)	問一 (1) 直後の部分に注目。 (2) 「17字」に着目。19行目に注目。 (3) 31～33行目に注目。 問二 設問の関連箇所を本文から探させる。 問三 ①は、その前の部分が「ぼく」の会話なので、確実に「少年」の言葉。次の②は「ぼく」の言葉。その順序で、言葉の内容・受け答えの様子を参考にして考えさせる。 問四 「蛻」は「亀の甲羅」ではない。「少年」が「この世の者」ではない様子から推量させる。 問五 「少年」が身につけている制服が、「ぼく」と同じ学校のものだという点に注目。 問六 全くの夢ではない証拠とは、感想や想いではなく現実に存在するもので証明する必要がある。遠足に関して、「少年」の実態を証明するものを考えさせる。「写真」に注意。

6

随筆文(1)

論説文的随筆文

▼指導ページ P 70 ~83▼

☆指導のポイント☆

- 「事実」と「筆者の意見・感想」を読み取れるようにする。
- 「事実」と「筆者の意見・感想」を読み分け、「筆者の意見・感想」の中心部分(主題)をとらえられるようにする。

板書例

<p>練習問題1 問五</p> <p>「単純な反抗」真の自由・個性への筆者の疑問 理由 ①制度↓社会に必要な ②「反抗」↓消極的な自由 ③「画一化された強制があるから成立する」自由</p>	<p>問八</p> <p>事実 ●日本の電車の中での人びとの変化 ↓挨拶をする習慣がうすれてきた ●人への「気遣い」が感じられない ●ヨーロッパ・アメリカ・東南アジア ↓挨拶の習慣を教育する</p>	<p>基本問題2 問四</p> <p>A「〜だろう」筆者の考え B「〜変わらない」事実 ※「文末」に注目↓「事実」と「筆者の考え・感想」を区別。</p>	<p>基本問題1 問四</p> <p>①「一期一会」↓「人」との出会いを一生に一度のものとしてとらえる ②筆者の「一期一会」のとらえ方 「今」を大切に ↓「人」と限らないで出会いを大切に ↓自分の「生」を楽しむ↓人生は二度ないもの ↓自分自身との出会い</p>
--	---	--	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P72)	定番 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七
基本問題2 (P74)	問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七
練習問題1 (P76)	問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八

8

説明的文章(1) 人文科学(言語等)

▼指導ページ P 98 ~111 ▼

☆指導のポイント☆

- 「言葉」を通じて、「文化」について考え、理解を深めるようにする。
- 「文化論」における、筆者の考えや意見をとらえることができるようにする。

板書例

練習問題1

【話題】 〓 名まえを知る 〓 ボキヤブラーを増やす 〓 感動

● ヘレン・ケラーの例

「ことば」をおぼえる感動

〓 「この世」をすばらしいものにしてくれる

↓ 世界を広げてくれる

● 「ことば」をおぼえること 〓 精神生活を活発にしてくれる

〓 「ことば」をおぼえること 〓 大人にしてくれる

筆者の考え 〓 「ことば」をおぼえること

基本問題2

【話題】 〓 日本人 〓 足に対する意識 〓 希薄

・ 足意識の違い

↓ 「手」のついたことば 〓 悪い意味が少ない

「足」のついたことば 〓 いい意味が少ない

← でも、全部が悪いわけではない

・ 同じ音「脚」 〓 情緒的な使いかた

・ 「足りる」 〓 「知足」 〓 いいことば ↑ 「足りない」 〓 赤字

・ 「足の便」 〓 交通手段

・ 「お足」 〓 お金 〓 蔑んだ感じ

日本人は「足」を重視してこなかった

筆者の考える理由

・ 狩猟民族と農耕民族のちがい

・ 生活様式の違い

基本問題1

【話題】 〓 日本語の文字 〓 独特

いろいろな国の文字

● 古代ギリシャ文字・古代ローマ文字

〓 ヨーロッパ諸国、南北アメリカ・東南アジア・アフリカ諸国

● アラビア文字を基本 〓 イスラム諸国

● インド文字 〓 インド

● ハングル 〓 韓国

● 中国の現代風の字体

● 日本文化の柔軟性

● 日本語の持つ柔軟性

● 食品・服装 〓 日本文化の柔軟性

● 日本文化の特色

● 日本語の特色 〓 日本語の特色

● 日本語 〓 便利な言葉

〓 「基本設計」が日本的という点で変わらない 〓 日本文化の特色

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P100) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	* の後の部分が前の部分の説明になっている。アは逆接、ウは転換、エは順接。 5行目・7行目に注目。 ——線①の直前の部分に注目。 「一系統」は14・15行目から「片仮名」とわかる。残りは「平仮名」。 19・20行目に日本が持っている性格としての柔軟さを別なことばで表現していることに着目。 韓国の文化について述べている38~40行目に着目。 「日本文化」「日本語」の関わりについて述べている第8段落に着目。 「ビク」ともしないという語句から判断。
基本問題2 (P102) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	第1・2段落に注目。 直後の第3段落に注目。 「皮膚」は「足」とは逆のあつかいということに着目。 直前の内容＝「悪い」、直後の内容「悪くない」という対立の内容に着目。 直後の部分に注目。 「まとめ」の段落を探させる。第10段落の書き出しに着目。 第10段落に注目。
練習問題1 (P104) 問一 問二 問三 問四 問五	直後の部分に注目。 (1)直前の部分に着目＝「水」→ヘレン・ケラーにとっての「水」の様子を書きぬかせる。 (2)ヘレン・ケラーと先生の行動に注目。英語のつづりはヘレン・ケラーの直前の記述に着目。 直前のヘレン・ケラーの言葉の中で「気持ち」を強く表現した箇所に着目。 31~35行目に着目。 筆者の主張や内容のまとめは文章の最後の部分に述べられている場合が多いので、最後の箇所に注目。

9

文学的文章(1) 同世代の友人

▼指導ページ P 112～125▼

☆指導のポイント☆

- 同世代の友人との関係や葛藤について、葛藤の種類・原因、葛藤が解消される流れをとらえることができるようにする。
- 葛藤の中でゆれ動く登場人物の心情や考えを読み取ることができるようにする。

板書例

<p>練習問題1</p> <p>【話題】「マナミの引っ越し」</p> <p>物語の展開</p> <p>↓「平気」な様子で話をする「マナミ」</p> <p>⇨「あたし」の気持ちを理解していない「マナミ」への怒り</p> <p>↓「マナミ」の新しい家についての話が実感としてわかない</p> <p>↓でも、「マナミは引っ越し」は変わらない事実</p> <p>⇨「あたし」はあらためてショックを受ける</p>	<p>基本問題1</p> <p>場面</p> <p>柔道の試合開始（頑固親父が指示）</p> <p>友里に背負い投げを決められる</p> <p>次も畳にたたきつけられる</p> <p>友里の返し技の犠牲</p> <p>またしても友里の技に負ける</p> <p>練習の終了</p> <p>健太の気持ち</p> <p>照れくさい</p> <p>信じられない↓油断のせいだ</p> <p>友里の技に感心↓今度こそ勝つ</p> <p>さらに、信じられない</p> <p>「女」にも勝てない、と言われる</p> <p>↓はずかしい</p> <p>・名誉挽回の機会を失ってしまった</p> <p>・今のうちにやめてよかった</p>	<p>基本問題2</p> <p>問四</p> <p>「太」「ヤッチン」⇨遠泳をやってみみたい</p> <p>泳ぎきれないとき⇨くやしい・敗北感⇨みじめ</p> <p>悩み</p> <p>問六</p> <p>遠泳をやりたい⇨悩み⇨棄権のときの「みじめさ」</p> <p>⇨遠泳にでたい</p> <p>●泳いだ少年⇨英雄</p> <p>●一生に一度の挑戦</p>
--	--	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P114)	前後の言葉に注意して考える。アは濃さ、厚さ、明るさがほのかなさま。イは大きなものが急に揺れたり、動いたりするさま。ウは光り輝いているさま。エは軽く浮きたただよっているさま。また、軽々と飛ぶさま。
問一	直後の「頑固親父」の「皮肉」な笑いに着目。
問二	「友里」と練習をする「健太」の気持ちについて12行目に着目。
問三	50行目から「健太」が柔道に自信をもっていることが推量できる。さらに28行目から「健太」が女子に負けることに抵抗を感じる性格ということもわかる。これらの点から「健太」の気持ちを推量させる。
問四	「友里」の「健太との勝負に勝てる」という自信を推量させる。
問五	次には「勝つ」という「健太」の思いが、試合の終了でその機会を失ったので「名誉挽回」が適当。
基本問題2 (P116)	
問一	「ヤッチン」の最初の会話に注目。「御船島」は遠泳の折り返し地点ということに注目。
問二	「太」の言葉に着目。41行目に注目。
問三	「太」の海について感じる気持ちは「父の死」がかかっていることを推量させる。
問四	「棄権」するものの様子が描かれている部分を探させる。60・61行目に注目。
問五	「太」が「ヤッチン」と交わしている会話から「泳ぎ方」にこだわっていることを読み取らせる。
問六	63～65行目に注目。「太」と「ヤッチン」の遠泳への思いが描かれていることを読み取らせる。
練習問題1 (P118)	
問一	マナミの何かを言いだせないでいること＝19行目に注目。
問二	マナミが「引っ越し」の話をする前には、「あたし」は会話に集中していない様子を読み取らせる。
問三	「あたし」にとっては重大な内容がマナミには平気な顔で話せることに「あたし」は怒りを感じていることを、直前の部分から読み取らせる。
問四	「会話の部分」「事実や情景の部分」「あたしの心のつぶやき」を区分して整理させる。
問五	「引っ越し」について話題とした会話を続けていることから「あたし」のあきらめられないことを読み取らせる。
問六	「マナミ」の引っ越し先の家や地域について話している内容を整理させる。
問七	「ピンボケ」＝「焦点が合わないのではっきりしない」様子。「マナミ」の引っ越し先の説明が「あたし」には実感として伝わっていないことを読み取らせる。

板書例

③

【話題】明治以降の日本文化 || 翻訳文化 || 言葉の意味中心の文化

- 音を軽く見る文化
- 「翻訳」するという考え || 文字中心 || 文字を読むこと
- 勉強 || 「言葉」による交流を考えない || 日本と外国の比較
- 日本文化は目の文化
- 日本の近代文化 || 「目」の文化 || 欧米と比較 ↓ 「視覚中心」
- 「耳学問」 ↓ 聞いて学んだことは正式ではないという考え

筆者の考え || 書き言葉を重視した文 || 音の響きを考えない || 悪文

②

【話題】筆者の動物に対する思い

- シートンの「動物記」…不思議な力をもつ
- シートンの中の動物 || かわいくおもう
- 動物に愛をもった作品や談話がかならず持っているもの || 愛情
- 筆者 || 動物に対して || 身勝手と呼ばれる愛情 || 動物と親しくしたい

例 チャップリン

- かわいく思うことは酷いこと…ヘミングウェイの例…めぐしはむごし
- 動物は愛情と酷さを教える

①

【話題】一途になることの重要性

- 筆者 || 子供のころ、小説家になろうと思った
- やることなすことは小説家になるための手段 || 一途
- 一途だから
- 読むことと書くこと以外の実体験 || 他人事のように
- 今の社会に生きる青年たちは不幸
- 一途にない
- なぜか
- 「今やらねばならぬこと」が選別しづらい
- 選択肢が多すぎて一途な人生を発見できない
- 一途でありさえすれば実現する未来を放棄
- 筆者の考え
- あれもこれもやろうとしてはいけない
- 多才 || ハンディキャップ
- ひたすらひとつのことを、一途に

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など	
① (P126)	問一	前の内容(「なろうと思った」ではなく)から後の内容(以来、ほかの人生を仮想したためしはない。)に向けて、筆者の決意が強くなっていることに注目させる。
	問二	直後の文章から、字数に合う部分を抜き出す。
	問三	直前の内容から、読み取らせる。
	問四	直後に、「読むことと書くこと以外の実体験は…」とあるので、読むことと書くことに対して一途だったことが分かる。
	問五	「やはり不幸というほかはない」と「やはり」が使われていることに注意。
	問六	直前の「磨きもせぬのに輝く才能などはありえない」は、石が宝石に変わることを表している。
	問七	本文に書かれていない箇所に線を引かせる。
	問八	直前の文章に注目させる。
	問九	最後の段落で筆者が言いたいことをまとめている。
② (P128)	問一	——線①の前に読んだときの情景が描かれている。
	問二	——線②の後に、「若いときは」と「老いては」とあるところに注目させる。
	問三	直前に、追われる鹿の様子について描かれている。
	問四	直後に、「かわいくおもう——という一語」とある。
	問五	直後に、「私の動物に対する愛情には身勝手という点にかけては相当なわがまま」とある。
	問六	直前に、「追われている恐怖、逃げている必死さ」とあり、様子が描かれている。
	問七	本文に、「身勝手な愛情」とあることに注目する。
③ (P131)	問八	最後の一文にまとめが描かれている。
	問一	——線①の直後の部分で内容を説明している。
	問二	「こういう」の内容を読み取らせる。直前の部分に注目。
	問三	話を聞き流すことを表す語句を選ばせる。
	問四	——線③を含む形式段落に注目。
問五	直後の部分の「耳学問」の内容を説明している箇所に注目。	
問六	「こういう」の指示する内容を読み取らせる。75行目から最後までの内容を整理してまとめさせる。	

11

説明的文章(2) 社会科学(比較文化等)

▼指導ページ P 136 ~ 149▼

☆指導のポイント☆

- 「比較文化論」「異文化論」を読み、筆者の考えや意見をとらえることができるようにする。
- 「自文化」との差異から「異文化」について理解できるようにする。

板書例

基本問題1

- 日本人⇨他者の目を強く意識するうえに周囲の人と同じような行動をとる傾向が強い
↓「個」が育ちにくい
- フランス人⇨遠慮会釈なく、がんがん押しまくる
↓激しく意見を戦わせ合っても、人間関係が壊れるようなことはない
- ヨーロッパ⇨大勢のなかで埋没してしまわないため、生き残っていくために自分を主張
⇐さらに
自立した人間同士が互いの意見や好みを主張し合って相互理解を深める
↓人間関係が成立する↓確固たる「個」が鍛えられる
- 個人より集団を重んじてきた日本社会
⇨「場」の空気を読んで自分を抑えてしまう傾向が強い
↓「個」が鍛えられていない⇨他者の目や評価が気になる
- 筆者の主張
心の健康や幸福という観点
↓「自分は自分」とどこかで開き直れる強さをもっていたほうがいい

基本問題2

- 日本文化に長く親しむ⇨「吸引力」にからめ捕られていく…「安らぎ」
・浴場文化・コタツでみかんなど⇨「安らぎ」の例
・若者が外に出たくなる⇨「安らぎ」の弊害
- 日本人⇨好奇心のかたまり：日本の文化の強靱かつ脆弱な性質
↓「雑居的無秩序性」の中に取り込まれ一体となる
例オペラ・諏訪大社・伊勢神宮
- 外来のものでさえ「雑居的無秩序性」の中に取り入れて自分のものとする
⇨日本の文化の「吸引力」の源泉⇨日本のシステム⇨強靱
↓引力圏からの逸脱⇨とっても難しい

練習問題1

イギリス⇨快適な都市空間
↓ロンドンの地下鉄の座席の例⇨社会として個人を尊重

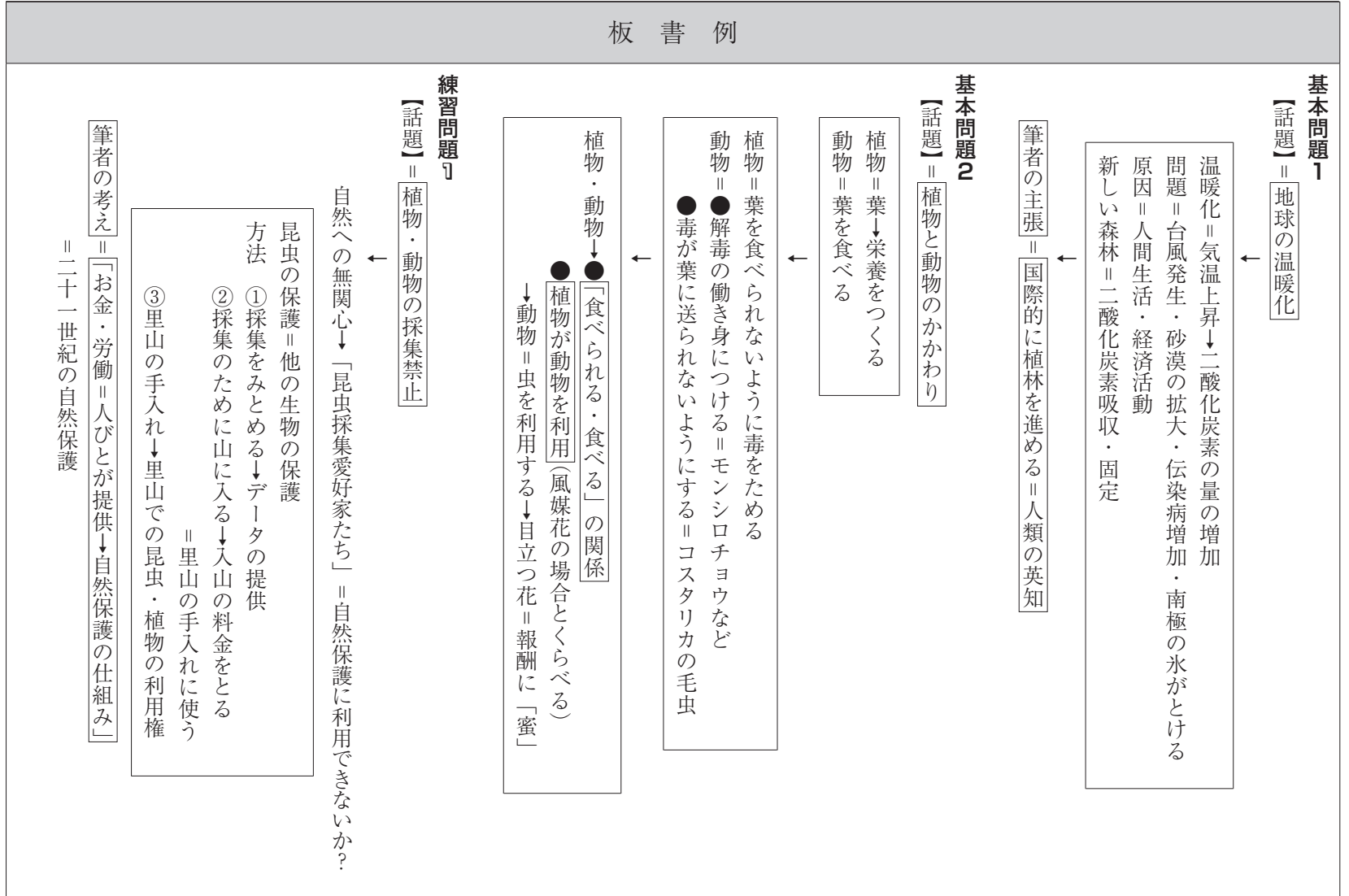
下宿の例⇨イギリス人と日本人の対応のちがひ
● 自分の「要望」「意見」について
イギリス⇨相手にきちんと伝える⇨合理的⇨納得⇨対応
日本⇨相手に気がねして伝えない⇨陰口
日本人の対応⇨イギリス人からみれば「卑屈」「フェアとはいえない」

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P138) 定番 問一 問二 問三 問四	「どのような」社会と問われているので、「～社会」と書いてある部分を探させる。 —線①の直前に注目させる。 次の段落に、理由について述べられている。 フランス人が何を重んじているか、本文で言いたいことが何かを考えさせる。 最後の段落の「『自分は自分』とどこかで開き直れる強さ」に注目。
基本問題2 (P140) 問一 問二 問三 問四 問五 問六	—線①の直後に理由が書かれている。 「安らぎ」について書かれており、「テルマエ・ロマエ」の例で、「主人公に異様な『感動』を与える」、「古代ローマに持ち帰られ、模倣される」とあることから気づかせる。 —線②の直前に、「若々しい脳」とあり、—線②に、「脳は、老いてしまって」とある。 —線③の前後から探させる。 諏訪大社の例と、伊勢神宮の例からそれぞれ選ばせる。 各選択肢で、本文には書かれていない部分に線を引かせる。
練習問題1 (P142) 問一 問二 問三 問四 問五	直後の文の「理由」を表す「～だから」に注意。 直後の2文に注目。 直後の部分には具体的な内容が書かれている。そうした「要望」を相手に伝える理由は50～53行目に注目。 —線④を含む文の「その結果」に注意。原因は直前の形式段落に注目。 —線⑤の「これ」は前文の内容を指しているの、「イギリス社会」のルールを下宿の話題から読み取らせる。

☆指導のポイント☆

- 生態系のしくみと人間との関係を考え、自然とともに暮らすということを理解できるようにする。
- 環境破壊や自然保護運動の現状についてとらえさせる。

板書例



ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P152)	<p>1 = 前後の内容が対立の関係。 2 = 後につづく内容が結果を表している。</p> <p>ウは対比・選択、エは転換、オは対比・選択、カは並立・累加。</p> <p>問一 「～問題は、～原因です」という記述に注意。24・25行目に注目。</p> <p>問二 「地球の温暖化」とは「地球」の地域の気温が上がることを意味する。</p> <p>問三 直前の「これ」の指示する部分を見つけさせる。</p> <p>問四 直前の部分の「場所」を表す語に注目。</p> <p>問五 「熱帯のジャングル」という語句に注意。28・29行目に注目。</p> <p>問六 「地球の温暖化」→「二酸化炭素の増加・気温上昇」→「問題の発生」→「原因」→「森林の役割」→「筆者の主張」の本文の展開に注目。</p>
基本問題2 (P154)	<p>問一 アルカロイドへの虫の対抗手段=2つの例の内容に着目。</p> <p>問二 1 = 具体的な例をならべていることに注目。 2 = 話が転換していることに注目。</p> <p>問三 植物が動物を引き寄せる場合を述べている部分=63・64行目に注目。</p> <p>問四 (1)「花」について着目。50行目に注目。 (2)43～62行目について「花」に注目して内容をまとめさせる。</p>
練習問題1 (P156)	<p>問一 直後の「が」(=対立する内容を後に続ける)に注目。</p> <p>問二 直前の部分から「今」(=昆虫の採集禁止)の状況を読み取らせる。</p> <p>問三 次の形式段落で述べられている色々な方法や筆者の考えに着目。</p> <p>問四 里山の利用を認めることと引き換えにすることは何か、を考えさせる。37・38行目に注目。</p> <p>問五 直前の部分の話の展開に注意。「植物・虫の採集禁止→自然への興味をなくす」という流れから、同じような話の展開をしている部分を見つけさせる。9行目に注目。</p> <p>問六 直前の「これ」の指示する部分を見つけさせる。52～54行目に注目。</p>

13

文学的文章(2) 目上の大人・異世代の友人

▼指導ページ P 164～177▼

☆指導のポイント☆

- 登場人物の関係を読み取ることができるようにする。
- 登場人物の内面の変化を読み取ることができるようにする。

板書例

基本問題1

- 登場人物 優太・鶴じい
- 場面 優太がランニングをし、鶴じいが見てくれている
- 鶴じい 優太のランニングフォームから過去の故障を指摘
- 優太 鶴じいに、膝を故障しサッカー部をやめたことを話す…悲しかった気持ち
- ↓鶴じいを信用
- 鶴じい 原因をクラムジーと指摘
- 優太 初耳 ↓鶴じいがまぶしく見える・心から尊敬
- ←鶴じい クラムジーで情緒不安定と説明
- 目からウロコという感じ 納得
- ↓成長した身体に慣れた サッカーがうまくなるかも…自然と微笑み

基本問題2

- 登場人物 弟(小父さん)・七つ年上のお兄さん
- 場面 孤児院の庭の鳥小屋
- 弟(小父さん) 鳥たちは、ただうるさいばかりの生き物
- ↓お兄さんが口にする名前の方がずっと魅惑的…さすが 尊敬
- お兄さん 小鳥は忘れてしまった言葉を喋っている
- ↓皆が忘れた言葉を喋る…周りから理解されない
- 弟(小父さん) 兄の言葉がちゃんと分かる 小鳥の鳴き声も聞き分けられる
- ↓晴れ晴れとした気分
- 弟(小父さん) レモンカナリアが何か不思議な問題について考えているとしか思えない
- お兄さん 思いも寄らない問題について考えている
- ↓よく理解できないがお兄さんを がつかりさせない よううなずく

練習問題1

- 組合の申し合わせ 「六」の自転車を使ったとうふ売りをやめさせる
- おばさん 組合の申し入れを受ける
- 「六」にとうふ売りをやめさせたい
- 店のために組合と対立したくない
- 組合をぬけてもいい
- 自分の店のやり方とおしたい
- 町に出てとうふを売る 自信
- 手作りのとうふ とうふへの愛情

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P166) 定番問一 問二 問三 問四 問五	「クラムジーの兆候」の内容を直前から探し、「～だけ」に合う形にする。
	——線①の直後の鶴じいの言葉に注目させる。
	直前の会話で、フォームのチェックや練習メニューを作る話をし、優太がお礼を言っていることに注目。
	27行目に、「説明してくれた。」とある。
	——線④の直前に注目させる。
基本問題2 (P168) 問一 問二 問三 問四 問五	慣用句の意味を説明した上で、改めて考えさせる。イは急によく理解できること。アは意外なところから意外なものが出てくること。ウは不意の知らせに驚くこと。エは元気がなくなりしおれる様子。
	直前の「まるで世にも珍しい生き物をおまえだけに特別に見せてあげよう」に注目させる。
	直前の「だから」に着目し、一つ前のお兄さんの言葉から考えさせる。
	——線②の直前に、「ならば」とあることから、直前に注目させる。
	39行目に、「風景はすっかり変わってしまったのに、なぜか鳥小屋だけはずっと同じ位置にあった。」とあり、42行目に、「小屋の作りや鳥の種類はさまざまに変化した。」とある。
練習問題1 (P170) 問一 問二 問三 問四	弟とお兄さんがそれぞれについて思っている部分に線を引かせて、考えさせる。
	直後の部分の「おばさん」の会話に注目。
	「おばさん」の考えは19～22行目までの言葉から理解させる。「おばば」の考えは33～38行目に注目。
	「おばば」の手について描かれている40～42行目に注目。
	33行目以降に「おばば」がどのように描かれているかに注目。手作りとうふを提供する自分の店のやり方に自信をもっていること、そして愛情をそそいでいることを読み取らせる。

☆指導のポイント☆

- 家族との関係で直面した問題・困難・試練をつかむことができるようにする。
- 問題・困難・試練を通じて、人物が成長する過程をとらえることができるようにする。

板書例

基本問題1

●父の気持ち

隠密作戦で調べる || 娘が心配 || 十五分の距離を三十分かけて登校

隠密作戦の結果 || 妻との会話

↓さまざまなものを「追究」して道草をする娘

↓見守ってあげよう

↓少し不安な気持ち

その後 || 「忘れ物」について学校の先生から注意

↓「ほわん」とした娘 || いとoshii

基本問題2

●「わたし」の気持ち

叱られるのを待つ

↓いちばん嫌な時間 || 宙ぶらりんの時間

↓叱られるなら、叱られて終わりたい

↓両親に謝りたい

キーボードのこと || 母から話がある

↓キーボードをやりたい || キーボードに向かう時 || 「自由」

↓「自由」を奪わないでほしい || 両親に自分の気持ちを伝えたい

↓両親に自分の気持ちを十分に伝えられない

↓「意気地」 || ない・「自信」 || ない ↓ 自分はだめな人と思える

↓父の「優しさ」 || つらい

練習問題1

●「ばあちゃん」の人物像

①「わたし」に「とうちゃん」の悪口をいったことをあやまる

↓心が広い

②「とうちゃんを心の支え」「とうちゃんもあんなたらをたより」

|| 真剣に子どもを育てる

↓「人」や「生き物」はおたがい支え合う関係にあるという考え

↓深くものごとを考える

③「わたし」のリンリンへの思いを真剣に聞く

|| 「わたし」の気持ちを理解 ↓ やさしい気持ち

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など	
基本問題1 (P180)	定番 問一	どんな場面なのかを考え、後に続く動詞に注意する。
	問二	本文中の「娘の様子」を説明する部分に注目させる。「追究」に着目。
	問三	笑っていられることのできない事態に着目。父として娘を大事に思う気持ちを本文中から読み取らせる。
	問四	——線③の表現や道草をする様子から、どのような「娘」かをとらえさせる。自然への興味ではなく、時刻やまわりの評価を気にしない行動をとらえさせる。
	問五	直前の「かえって」に着目。一般人が持つと予想される「娘」への評価と反対の評価を、筆者が持っていることを表現していることに注意。
	問六	「妻が隠密作戦の話をする場面」「その作戦の結果についての夫妻の会話の場面」「娘のその後の様子の場面」の三つに区分できることを読み取らせる。
基本問題2 (P182)	問一	「わたし」の気持ちが描かれている文章の最初と、——線①の直後の部分に注目。
	問二	直後の「わたし」の気持ちが描かれている箇所に着目。
	問三	「空っぽ」という語に着目。「わたし」にとって「空っぽ」= 31~33行目に注目。
	問四	「心」のなかの「わたしの叫び」に着目。45行目に着目。
	問五	「わたし」が両親を尊敬していることは51・52行目から読み取れる。そうした両親に対して自分の気持ちを正しく伝えることができないことに苦しむ様子が46~50行目に描かれていることに着目。
練習問題1 (P184)	問一	——線①を含む「ばあちゃん」の会話に注目。
	問二	直前の「ばあちゃん」の話から、子どもの頃の「とうさん」への思いを読み取らせる。
	問三	「支えとるもなんも、~生きとる。」の「ばあちゃん」の話に着目。
	問四	46~48行目に着目。犬を山に捨てたことが気になっていた「わたし」の気持ちを読み取らせる。
	問五	「ばあちゃん」の会話の内容に着目。話の内容から、物事を深く考える・心が広い・あたたかい気持ちを読み取らせる。

16

説明的文章(4)

現代社会等

▼指導ページ P 202 ~ 215 ▼

☆指導のポイント☆

- インターネットやITによる社会の変化について考えさせる。
- 現代の人間関係について、筆者の考えをとらえることができるようにする。

板書例

基本問題1

【話題】 ネットやITについて

- 地方分散 ⇨ 地方都市が有機的に結合する「多極分散」
- ネットやITを利用した地方分散の利点
 - 例・通勤ラッシュ
 - 例・フランスのローカルオフィスに勤めるご夫婦
- コミュニケーション ⇨ ローカルで行われる ⇨ 月に幾度か大都市へ

多極分散国家 ⇨ 個々のローカルな共同体が、孤立せず動的に連携したもの

市場原理主義者たちが唱える「中抜き」 ⇨ 間違い

- 消費者がもつめるもの ⇨ 新鮮な充足感を与えてくれる商品

← 付加価値：微妙な差異

⇨ 専門的なサービスやコミュニケーション

基本問題2

【話題】 キャラについて

- キャラ ⇨ 人間関係というジグソーパズルを組み立てている個々のピース
 - ⇨ 集団のなかに自分の居場所を確保するための工夫
- キャラかぶり ⇨ なるべく回避 ⇨ 集団内での居場所を互いに危うくする
- キャラ疲れ ⇨ 他ならぬ自分自身だという確信が揺らぎやすい
- 婚活の例 ⇨ 予定調和の関係 ⇨ かけがえのなさから疎外される
- ネットの匿名性 ⇨ キャラの人間関係の維持を容易に
 - ⇨ 代替可能性への不安も増長しやすい

キャラ ⇨ 「代替可能な私」の不安から抜け出すことができない

⇨ 自己の単独性が保証されない

練習問題1

【話題】 世界観や生活について古代人と現代人を比較

- 古代人と現代人の世界観や生活 ⇨ 本質的にはあまり変わらない
- 古代人 ⇨ 肉眼
- 現代人 ⇨ 高性能な望遠鏡

⇨ 果ての果てまで見通せない

- 現代の科学的真理と古代人の真理
- 古代人 ⇨ 経験的法則・入江の外へ少し出ることができくらゐの舟
- 現代人 ⇨ 最新の物理法則・現代の宇宙船

← 本質的にはあまり変わらない

⇨ 経験からうまく予測をたてて行動している

結論 ⇨ 古代人と同じことを、現代人はとてつもない規模と範囲において実行しているにすぎない

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 定番 (P204) 問一 問二 問三 問四 問五	① = 後の段落が前の段落の具体例を示している。 ② = 後の段落が前の段落をわかりやすく説明している。イは逆接、ウは転換、オは順接。 第四段落の「断っておくが、～」以降の内容に注目。 ——線②の後にある「だから」に注目。 ——線③の直前に着目させる。 前の段落にある「～という議論だった。」に注目。 最後の文の「言いかえれば」に注目。
基本問題2 (P206) 問一 問二 問三 問四 問五	最初の段落に着目。キャラ＝一人一人の人間ととらえていることに注意する。 ——線①の直前に注目。 ——線②の前文の「確信がゆらぎやすくなります」に注目。 「このような観点」とあるので、前の段落から探させる。直前の「特別性」に注目。「特別性」と対比されている言葉を探す。 ——線③の直後の「『代替可能な私』の不安から抜け出すことができない」に注目。
練習問題1 (P208) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	直前の部分の「古代人の～」と対比の関係になっていることに注目。 ① = 前後の内容が対立している。 ② = 後の段落が前の段落をわかりやすく言いかえている。アは説明・補足、ウは対比・選択、エは転換。 ——線②の前後で述べられている内容(筆者が言いたいこと)に着目。 ——線③の後に、「～にすぎない」が使われていることに着目。 ——線④の直前に着目させる。古代人の舟と「さして変わらぬもの」と述べていることに注目。 「これより後」とあるので、——線⑤より後から探させる。直後の部分と最後の段落に着目。 ——線⑥の直前の文に書かれている内容をまとめる。

☆指導のポイント☆

- 出来事を通して変化していく気持ちを読み取ることができるようにする。
- 主人公が成長していく過程をとらえることができるようにする。

板書例

基本問題1

- 信夫 町人の子なんか屋根から落とされたりするもんか
- ↓ 祖母から士族と町人は違うと言われていた：当然
- 父 信夫のほおを力いっぱい打った
- ← 信夫 高められると思ったので父をにらむ 反発
- 信夫 士族の子と町人の子とどこがちがうのさ
- ↓ どこがちがう 抵抗
- 父 人間はみんな同じ、むしろ士族が恥ずかしい人間
- ↓ 信夫の胸をつく 衝撃
- 信夫 ほんとうに人間はみんな同じなのさ
- 士族はえらい 当然 士族は恥ずかしい人間
- ← しかし
- 謝罪するほどの気持ちになれない 抵抗
- 父 信夫の代わりに謝罪
- 信夫 一生忘れることができない 衝撃

基本問題2

- 佐々木 バスケット部員として体育館に引退のあいさつに来た
- ↓ ひとりでバスケットをする
- 亜樹 佐々木にボールを渡される
- ↓ いろんなことがよみがえる：新入生の頃・初めての公式戦など
- ↓ ゴールを決める：不思議な気分
- 佐々木 ここですごした時間は無駄じゃなかったよな
- ↓ 亜樹 ほんとに 必死でさけてきた 疑問
- 佐々木の弱々しい声
- ↓ あの頃：亜樹が「素」で生きていた時代・まーくんを助ける役目
- ↓ 亜樹 「無駄じゃなかったって、思えるようにするの」
- ↓ 怒ったような声・強気 前向き
- ↓ 佐々木 感心

練習問題1

- 俺 好きな絵に本気で打ち込めない
- 村田 ひとそかにスケッチを続ける
- 俺に 本気で絵を描くように言う
- 俺 本気がイヤ ↓ 自分の限界を見るのがこわい
- 村田 理解できない
- 非常に真面目な顔で俺を見ていた ↑ なぜだかは聞きたくない気分
- 俺 サッカーはずっとサブだが、本気で見てる
- ↓ サッカーが好き ↑ 村田 少し意外
- 村田 絵がすごい好き
- ← 俺 村田の素直な声が、鋭く胸に食い込むような気がした

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P218)	前後にある「当然」に着目。 ——線①の直後の父の言葉から、原因となる直前の信夫の言葉「町人の子なんか」に注目。 ——線②の前の祖母の言葉に着目。 ——線③の直後に信夫が返事をしていないことから、父がわかりやすく説明していることに注目。 ——線④の直前の父の「あやまることができないのか」「自分のいった言葉がどれほど悪いことか」に着目。
基本問題2 (P220)	父の言葉や様子などが書かれた部分に注目し、判断する。 ——線①の後の「ありがとうございましたの気持ちで一礼する」と書かれている部分に着目。 ——線②の直前の文に着目。 ——線③の直後の段落に具体的な内容が書かれている。 ——線④の後に書かれている、卓球部での様子をまとめさせる。 ——線⑤の後の、「～だった頃に。」という部分に着目。 ——線③では何を無駄にしないのかようにするのかをとらえさせる。
練習問題1 (P222)	問一 [1] = 直後の「怒られている」とあることに注目。 [2] = 村田が独り言のように話し、俺もそれに答えていることに注目。 アは物音や人声がせず静かなさま。静かに、目立たぬようにするさま。エは美しいものなどに心を奪われて、ぼうっとしているさま。また、気抜けしたさま。オは静かにゆっくりと動作が行われるさま。すべるようになめらかに動くさま。 問二 ——線②の後の俺の言葉に着目。 問三 35行目の俺の気持ちから判断させる。 問四 「聞いた」とあるので、直前に注目。 問五 ——線④の直後の二人の会話から推測させる。 問六 ——線⑤の直前の村田の言葉に着目。

18

文学的文章(5)

文化・自然

▼指導ページ P 230 ~243▼

☆指導のポイント☆

- 「日本人と自然」や「人間の暮らしと自然」といったテーマをもとに、身近な自然や人間との関係について考えさせる。
- 文章に表された筆者の思いや考えを読み取ることができるようにする。

板書例

練習問題1
●手仕事について
例紙漉き

手仕事
①「身体」の仕事
↓全身のしている仕事
②自然の偶然性に身をゆだねること
↓自然の不規則性を個性として取り込む

機械などを使って時間を短縮
↓柔らかさ・風合いが一樣：否定的

例布の場合…より顕著

手仕事 〓 〓 同じものが二度とできないほどの違いを生じる
↓すべて、ものごとが「自然」の側にゆだねられているから

基本問題2
問三
ババカジカがいらない
↓「ボク」の予想(みんながカジカを食べなくなったから、カジカをとらないので、たくさんいる)に反する
↓不思議 〓 「なぜ、カジカがいらないのか」

問四
カジカのない理由 ↓ 母のことは 〓 農薬の空中散布
↓水生昆虫がいなくなる ↓ カジカのエサがいなくなる
↓カジカがいなくなる

基本問題1
問一
土地に値段がある ↓ 「理不尽」
なぜ、理不尽と思うか?
①土地は自然にもとからあるものだから
②土地は人の手で造られたものではないから

問二
土地に値段があることへの筆者の理解
「占有権」という考え方
↓「所有」ではなく自分の間使用する土地を「占有」
↓土地の値段 〓 その権利金

問五
筆者の「値段制度」への理解
理不尽ではあるが、容認する理由
〓 いずれ、すべて土地は自然にかえる
↓「限定」された期間だけ土地を「所有」していると考える

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P232) 問一 問二 問三 問四 問五	指示語なので直前に書かれている内容に注目。問題文中に「具体的なもの」とあることに注意。
	後の部分で筆者が「理不尽」と思った理由が2点述べられている。
	説明している部分に注意。次の形式段落の「つまり」に注目。
	「錯覚」＝「自分のものではないのに、自分のもの(所有)と考えてしまう。」
	直前の語「いずれ」に注目。41行目の「いずれ」を使った部分に注意。
基本問題2 (P234) 問一 問二 問三 問四 問五 問六	筆者の主張＝最終段落に注目。
	カジカの夜突きの情景を描いた部分を探させる。
	——線②の直前「そんな」の指している部分を見つけさせる。
	「首をかしげる」とは「不思議に思う様子」。「ボク」は何を「不思議」に思ったのか読み取らせる。
	次の段落から「ボク」は推理をめぐらし、後に「結論」にいたる。その箇所を読み取らせる。
練習問題1 (P236) 問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	ここでの「複雑」とは、「単純」に一方に賛成できないことを意味している。
	直前から「ボク」を感動させたことを読み取らせる。
	——線①の後から具体例が続いていて、解答が離れていることに注意。
	——線②の直前に「しかし」があることに着目。
	冒頭の「手仕事」とは、「身体」の仕事である。という部分に着目。
	——線③の後に、「『紙の繊維』と、『それ以外の要らないごみ類』」とある。「と」に着目。
	——線④の直前の「除くことができず」と——線④の直後の「取り込んでしまう」が対応していることに注目。
「～を使うこと」とあるので、38行目の「たとえば」以降に書かれている機械に着目。 イは第6・7段落、エは第5段落に注目。	

☆指導のポイント☆

- 詩・短歌・俳句の特色を理解できるようにする。
- 作品の情景・心情を読み取れるようにする。

板書例

<p>俳句</p> <p>▼五・七・五の定型詩 世界で最も短い定型詩</p> <p>▼季語 季節を表すことば</p> <p> 一つの句には一つの季語がある</p> <p>↓ 現代とは季節が合わない場合がある</p> <p>▼切れ字 強い感動や強調を示すことば</p> <p> 「や」「ぞ」「かな」「か」「けり」「なり」など</p>	<p>短歌</p> <p>▼五・七・五・七・七の定型詩 一首・二首と数える</p> <p>▼句切れ 意味のつながりの切れ目</p> <p>意味の上で「。(句点)」を付けることができる</p> <p>▼字余り・字足らず 三十一音より「多いもの」…字余り</p> <p>「少ないもの」…字足らず</p>	<p>【連】</p> <p>○「行」がいくつかまとまったもの</p> <p>ふつうの文の段落のようなもの</p> <p> 一行あきの形をとる</p>	<p>【形式による分類】</p> <p>■ 定型詩 音数・行数に決まりのある詩</p> <p>■ 自由詩 決まりのない自由なリズムの詩</p> <p>■ 散文詩 ふつうの文章(散文)の形の詩</p>	<p>【用語による分類】</p> <p>● 口語詩 口語体(現代の言葉)で書かれた詩</p> <p>● 文語詩 文語体(昔の言葉)で書かれた詩</p>
---	---	---	---	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>基本問題1 定番 (P246) 問一 問二 問三 問四</p>	<p>使われている言葉(用語)や、決まりがあるかなどといった形式に着目。</p> <p>②の後に「夢」とあることから、「将来の夢」＝「未来」を推量させる。</p> <p>「ばく発」から想像させる。</p> <p>「～にくる」という表現＝④が「人」の動作をしたように描かれている＝擬人法。</p> <p>最後の「連」に注目。作者が少年に呼びかけた言葉から作者の思いを推量させる。</p>
<p>基本問題2 問一 (P247) 問二 問三 問四</p>	<p>内容から判断させる A＝「桑～摘む」で内容が一区切りされていることに注意。</p> <p>B＝「なつかし」で内容が区切れていて、「倒置」が使われている。</p> <p>「我」が「摘む」ときの姿勢に注目。</p> <p>「倒置」を使って強調されている部分に注目。</p> <p>「A＝幼い時を思い出している。B＝ふるさとをなつかしむ気持ち」→「追憶」が適当。</p>
<p>基本問題3 問一 (P247) 問二 問三 問四</p>	<p>「季語」は1句に1つよみこまれていることに注意させる。ただし、現代の季節と異なっている場合もある。</p> <p>「切れ字」＝強い感動や内容の強調を示すときに使われる語。</p> <p>「雪つぶて＝雪の小さなかたまり」から推量させる。</p> <p>「字余り」＝定型詩の俳句は「五・七・五」でよまれるが、語数の多いものが字余り。</p>
<p>練習問題1 問一 (P250) 問二 問三 問四</p>	<p>「リズムをつける働き」＝「くり返し」。「～ように」ということばを使ってたとえる＝「直喩」。</p> <p>「波」「舟」「汐鳴り」から推量させる。</p> <p>行が一段下げられていることに注目。</p> <p>作者が、「出発」の「くり返し」の効果によって読み手に強く伝えたいことを推量させる。</p>

板書例

①

- グローバリゼーション
 - ↓ 文化のグローバル化
 - 文化⇨地域の人びとの営みに根ざす
 - ↓ 現代では、多くの文化が国境を越えてある共通の意識をつくり出す
 - 例音楽：距離を超えて浸透する
 - ↓ 離れていても、共通認識
- グローバリゼーションの問題点：例英語
 - 英語⇨
 - ← だが
 - ・ 「英語帝国主義」と呼ばれる問題点
 - ・ 英語を母語とする人とそうでない人との間には大きなハンディキャップが生じる
 - ・ 英語での表現には限界がある⇨英語による知の支配の問題
- 言語のグローバル化
 - プラス面⇨世界共通語によって世界中の人と第三者を介すことなくコミュニケーションがとれる
 - マイナス面⇨日常的に使っていない言葉で表現せざるを得ない

②

- 生徒⇨悪天候で日食を見られなかったことに **不平**を言う
- 河井⇨少年のころの話をする
- 野川⇨どぶ川(河井が小さな子どものころ)
 - いまの姿(中学生のころ)
 - ↓ ホタルを復活させる：田園風景に欠けているもの
 - ↓ じゅうぶんに **心**にのこった
 - Tさんから聞いた野川の話(六十年以上前)
 - ↓ 河井⇨ **自分の目**で見なくても **心**にのこる風景
 - Tさんが子どものころ、夏のある晩のこと
 - まぶしさで目をさます
 - ↓ 見わたすかぎりどこまでも、どこまでもホタルが飛びかう
 - ⇨ 光に満ちあふれた海
 - 生徒たち⇨ **ふつと息をついた**：河井の話に集中
 - 生徒のひとり⇨ **意識に灼きついた光景**と完全には切りはなされていない顔
 - ↓ 河井と同じ体験

ページ・問題番号	問題	指導内容・留意事項など
① (P258)	問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八 問九 問十	<p>——線①の前の「近年」と、——線①の後の「ところが現代では」に着目。</p> <p>直前の「このように」に着目。前の内容をまとめた言葉になることがわかる。</p> <p>「若者」と「音楽」の具体例が書かれた8～10行目に着目。</p> <p>直前の文の「グローバリゼーションと称して議論」に着目。「それら」と複数になっていることにも注意。</p> <p>——線④の後にある筆者の経験の中から「むしろ」に着目。</p> <p>□3 = 前後で話題が変わっている。□4 = 前の内容に同じような内容を付け加えている。アは例示，ウは説明。</p> <p>——線⑤の次の段落にある「世界共通語」に着目し、この段落の要点をまとめさせる。</p> <p>——線⑥の直前の内容に注目。</p> <p>——線⑦の後の段落に書かれている具体例から、「一つ」、「もう一つ」に着目。</p> <p>「過労死」や「オタク」と、その前の「i e」の内容は具体例なので、さらに前の「すると」の後の内容に着目。</p>
② (P261)	問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	<p>——線①の直前の野川の様子をあらわした部分に注目。</p> <p>問題文の「足りないもの」と、——線②の後の「絶対的に欠けているもの」の共通性に着目。</p> <p>参加者が緊張している様子から判断する。イは驚いているさま，ウは待ち望んでいるさま，エは怒っているさまを示している。</p> <p>——線③の前の「六十年以上前の話」に着目。</p> <p>同じ段落の最後のTさんが見た光景をまとめる。</p> <p>——線⑤の後の「～呼吸するのを忘れていて、ようやく思い出したかのよう～」に着目。</p> <p>生徒にとっての日食のように、河井がTさんから聞いたホタルの光景も実際見ていないことに着目。</p>
③ (P263)	問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	<p>語数が決められていないので「自由詩」使われている。言葉は「口語」。</p> <p>「芽は」どうなったか。3・4行目に注目。</p> <p>①の直前「～だから」に注目。</p> <p>2・3行目から「さわやか」な秋が感じられる。</p> <p>9行目の「～ような」に注意。</p> <p>8行目から「葉」ということがわかる。</p> <p>A → 「激しい変化」に着目。 B → 「さわやか」な秋の「かわいた」空気の変化に着目。</p>